廃棄物世界における世代交代
―― 新たな時代の始まり



㈱エックス都市研究所取締役特別顧問
青山 俊介

プロフィール
㈳土木学会地球環境委員長、㈳日本廃棄物コンサルタント協会会長、㈳海外環境協力センター運営委員長、廃棄物学会企画委員長などを歴任。
現在、㈳日本プロジェクト産業協議会環境委員長、㈳日本有機資源協会副会長、㈶日本産業廃棄物処理振興センター理事、㈶産業廃棄物振興財団の「産業廃棄物経営塾」副塾頭を務める。

私が廃棄物の世界に足を踏み入れたのは、1971年に埼玉県下の市町村廃棄物処理の解析を修士論文に纏め、往時の環境の専門誌であった「公害と対策」に連載した時からであった。それ以来、厚生省時代の森下、小林、杉戸、加藤、藤原、坂本、環境省の浜田、岡澤、飯島、由田などの諸氏を始め、学会、コンサルタントや産業廃棄物処理、環境装置業界を主導されていた方々の多くと30年近い交誼を頂いた。

今、振り返ると、1970年の廃棄物処理法の制定を契機とする勃興期からこの世界に身を置かせてもらえた「時の利」を享受できた数少ない一人であったようにも思える。この40年のなかで私は2000年頃までは、廃棄物の世界の潮流をかなり先読みでき、コンサルタントという社業においても商圏形成にあまり苦労は無かった。しかし、この10年は、自治体清掃の民間活力導入、国際資源・エネルギー市場の拡大、温暖化問題の対応などが複雑に絡み、更に、昨年来の世界経済不況、資源エネルギー価格の乱高下、今後に予想される未曾有の自治体財政の逼迫などは、市町村清掃、民間処理業、コンサルタント、環境装置産業を問わず、根底からの業容、体制の再構築を迫っている。廃棄物の世界では、昨今まで70年代の廃棄物処理の興隆期に登場した産学官の若手が異例とも思える長きにわたって先導的な役割、地位を占めてきた。しかし、私も含め、これらの多くが一線を退き、また、この再編期を乗り越えるだけのエネルギーはもはや無く、世は新たな担い手を求めている。

今日ほど、過去との延長上で将来が読めず、また、対処していく上で違う能力が求められたことは無かった。それは、70年代の勃興期と同じく、新たな時代の始まりとして、廃棄物世界をリードする産学官の担い手が輩出する好機とも捉えられる。世代交代のなかで、どのような担い手がこの世界をリードしていくことになるのかが楽しみな昨今である。

コラム